

施策事例 ① 住民参画・NPO・ボランティア関連施策

ほどがや☆元気村事業

自治体情報 神奈川県横浜市

人口 / 3,627,000人 標準財政規模 / 782,561百万円

担当課 保土ヶ谷区役所地域協働課
電話番号 直通 045-334-6308
実施主体 保土ヶ谷区役所・ほどがや☆元気村実行委員会
関連ホームページ <http://www.genki-mura.jp>

事業期間 平成21年度から

関係施策分類

予算関連データ

総事業費：7,140千円

名称	所管	金額(千円)
一般財源	—	7,140

施策のポイント

保土ヶ谷区に残る唯一の水田を活用し、地域の新たな担い手として団塊の世代の方々々に元気に活躍していただきながら、児童・生徒をはじめ多くの区民の交流の場（ほどがや☆元気村）を目指す事業である。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

平成18年度・19年度に実施した、区民が運営委員となり、社会的課題をテーマに、学級の企画・運営を行う生涯学級「ほどがや自然塾（こども編）」が区民に大変好評だったことから、より発展的に拡大し「ほどがや☆元気村」事業を開始した。当事業は、地域の担い手の育成（人材育成）、地産地消による食育、世代間交流による青少年健全育成、区内唯一の貴重な環境資源を守る（環境保全）を目的としており、多岐にわたる現代的課題の解決に向けて活動を進めている。

2. 取組の具体的内容

- 水田・畑づくり等のフィールド整備（通年）
農家の指導のもと環境整備を進める。
- どろんこ教室の開催（年間12回以上）
児童・生徒向けに農に関連するイベント・講座を開催し、世代間交流を図る。
- 広報・啓発（通年）
日頃の活動や成果について、ホームページにより情報発信を行う。また、区内を中心に活動する生涯学習や市民活動実施団体の相互交流、区民への活動PRを目的としたイベント、生涯学習フォーラム（まなぶん祭り）に参加して活動を啓発することを通じて、事業について広く区民に周知する。
- 設備・備品の管理（通年）
設備の安全面・衛生面の管理及び農具等の備品の管理を行う。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

当事業に参加・参画する区民の人数

- 村運営の中心となるボランティア人数 36名
- どろんこ教室などのイベント参加者数 1,200名

4. 現在までの実績・成果（H23.4月現在）

- 村運営の中心となるボランティア人数 122名
- どろんこ教室などのイベント参加者数 2,472名

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

（工夫した点）

人材育成事業として、市民活動のノウハウやコミュニケーション能力を学んでもらえるように、ボランティアの実行委員会に運営を委託した。また、農家のアドバイスもあり、年間を通じた活動とすることで、農業の苦労と収穫の喜びを体験できるようにした。その中で、農体験だけでなく、かかし作りやわら細作りなど、モノづくり体験も取り入れることで、バラエティ豊かな内容にするなど参加者が飽きないように仕掛けをした。

（苦労した点）

実行委員会の組織づくりの指導が最も苦労した。組織の体制づくりに試行錯誤している中で、農に関連するイベントを実施していかなければならないので、体制づくりとイベント実施の両立が難しかった。

6. 今後の展開と課題

今後は行政として、地域活動の協働の担い手となる団体の自立化に向けて、組織固めに力をいれつつ、より多くの区民・団体と交流・連携していくことで、ボランティアの実行委員が自ら課題に取り組めるように、オープンな姿勢で支援していきたい。

また、事業実施に係る経費が区の委託料で賄われていることから、自主財源の確保が課題となっている。実行委員会会費の増、受益者負担の拡大が検討されている。